

『ロータリーのリーダー論』

私の診療所では、スタッフの返事は「はい」か「分かりました」しかありません。

小さな組織ですが、指示系統は一本で混線を許しません。

スタッフは私の指示が常に正しいと信じて、従っています。

その分、私の責任は重大で、常に最新の知識を勉強し、正しい状況判断を心がけています。

開業当初、思ったほど患者が来ず、薬代も払えない状態になりました。泣く泣く、スタッフを半分にし、彼女等には平謝りに、謝りました。もう二度と、このような辛い経験はしたくないとの決意で、スタッフファーストの経営を心がけ、潰れずに順調に継続しています。

わが家では、家内に対する私の返事は「はい」か「わかりました」「ごもつとも」しかありません。

松本源也さんに教えてもらったのですが、大変有効で、争いはなくなりました。

以来、わが家のリーダーは家内になっています。

ひと昔前には、世界的な企業のリーダーはMBA(ビジネススクール)での教育を受け「論理」と「理性」による経営指向する人がもてはやされました。MBA出身でなければ、社長になれない時代でした。ところが、近年のグローバルな世界は複雑過ぎて「論理」と「理性」では勝てない時代となったのです。グローバル企業の幹部は、美術系大学院でエグゼクティブ向けのプログラムを受けることがトレンドとなっています。

グローバル企業の幹部候補、つまり世界で最も難易度の高い問題の解決を担う人々は、これまでの「論理」と「理性」のスキルに加え「直感」と「感性」のスキルを身につけて、複雑な問題を解決することを求められています。そのために、美的感覚を磨き、「自身の美意識」に基づいて直感的に判断し問題の解決や将来の方針の決定することが求められています。判断を間違えると、生き残れない時代となったのです。その目的は、企業の継続的な繁栄です。

ロータリーのビジョンは、ロータリーがこれからも長期的に繁栄していくために、未来の方向を定めるものであります。

それによると、「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界をめざしています」と言っています。

もうお分かりですね、私の小さな診療所も、私の家族も、世界的な企業も、ロータリーもすべて、長期に繁栄し、継続することを目指しています。

リーダーの資質は、企業や組織を長期に繁栄し存続させるスキルを持つことだといえます。

ロータリーの四つのテストは、生活や仕事の場面で常に繰り返し問い直す事で、決断を迫られた場面での間違っただ判断を防いでくれ、組織を守ってくれます。

またロータリーの「超我の奉仕」や「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」は、私が常に妻に実施しているモットーで、だからわが家は大きな波乱もなく経過しています。もつとも、彼女は決して恩義に思っていないでしょうが。

以上、真のリーダーとは組織の持続的な繁栄を目的とします。

そのため、確固とした理念が必要ですが、加えて変化に対応するためのスキルも求められます。

現在のように、複雑で、変化の激しい時代には、かつてのような理性による情報処理だけでは、方向性が間違っ可能性がります。

確固とした理念と美的感覚を磨き「自身の美意識」を持つことを勧めます。

